

◆行ってみたかった！図書館見学レポート◆

## 立命館大学 平井嘉一郎記念図書館

深井 鮎美

日赤図書室協議会の研修会プログラムで、立命館大学衣笠<sup>きぬがさ</sup>キャンパス（京都市北区）に2016年4月に開館した、平井嘉一郎<sup>かいらう</sup>記念図書館を見学させていただいた。同大学の卒業生であり、ニチコン株式会社創業者の故・平井嘉一郎氏の名を冠したこの図書館は、氏の遺志を引き継がれた夫人からの寄付により建設された。同大学の理工学部建築学科教授も建築にたずさわられ、建築デザイン・意匠・サインが評価され建築の賞にも入賞されたということで、デザインが大変印象的であった。



図1

ギリシア神殿のような重厚な建物（図1）内には図書館横にタリーズコーヒーが併設されている。1階ラーニング・コモンズスペース「ぴあら」では同店の飲み物も持ち込み可能である。



図2

柔らかい光が差し込む入口ロビーには平井嘉一郎氏の胸像と書、背景には四季の美しい画像が映し出されるモニターが来館者を迎える（図2）。



図3

FUKAI Ayumi

大津赤十字病院図書室

TEL : 077-522-4131 FAX : 077-522-4050

tosyo@otsu.jrc.or.jp

入館・退館ゲートは日本で初めてのシステムである「自動貸出ゲート」が導入されている（図3）。借りたい図書を持って退館ゲートを通ると、図書に貼られたICが自動で認識され、IDカード（学生証）をタッチすれば貸出手続きが完了する。

紙ポスター掲示は入口付近の一角のみ、他は電子看板でのポスター掲示、もしくはスタンド式で、壁にはポスター掲示はせず館内の美観を保っている。

入館すると頭上に広がるのが「ライブラリー・バレー」と名付けられたガラス張りの吹き抜けである（図4）。



図4

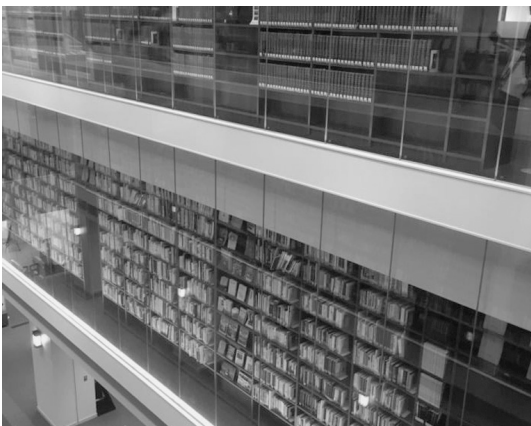


図5

3階から見たライブラリー・バレー（図5）。「ブックウォール」をイメージした、天井まで届くほど背の高い書架に並ぶ蔵書は圧巻。

内側から見たライブラリー・バレー（図6）。古い蔵書を敢えて「見せるデザイン」の小道具として利用し、ガラスと書架の間は一人がやっと通れるほどの幅である。



図6

2階、3階の閲覧室には、各自が集中できるように仕切られた半個室の学習席がある（図7～9）。館内の総座席は2,000席以上。

ブラウンを基調とした落ち着いた色合いで、書架・椅子・家具はほぼオーダーメイド。書架の文字表示はインテリアを邪魔しない控えめなデザインである。



図7



図 8

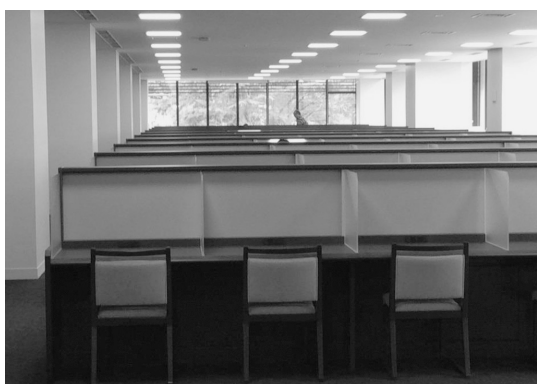


図 9



図10

地下1階は一転してカラフルでポップな雰囲気、透明な書架に配架されている雑誌最新号の表紙も彩りを添えている（図10）。

そのほかにも、

- ・自動PC貸出機—貸出用のノートPCがコインロッカー様に収納されており、利用者のIDカードによって貸出、管理される。
- ・自動書庫システム—利用者がWebOPACから操作すると、職員の手を介さずダイレクトにコンピューターが書庫から図書を出庫する。
- ・シアタールーム—ミニシアターさながらの上映館（35席）。映像学部作品上映や、図書館所蔵DVD上映会などのイベントが行われる。

以上のような、目を見張る充実した設備の数々を見学させていただいた。

落ち着いた上質なインテリアと最新のシステムが兼ね備えられ、学習・研究する環境として大変恵まれた図書館という印象を強く受けた。

別の研修で見学した大学図書館とは雰囲気全く異なっており、私立大学図書館と一言で言っても、校風や抱える学部や経営方針によって図書館もそれぞれカラーがあるのだと思った。もしまた自分が通う大学を選ぶとするならば、図書館が過ごしやすそうか、自分の好みかを選択の指標のひとつにしたい。

病院図書室も同様ではないだろうか。研修先や勤務先を選択する際、研究熱心な医師は図書室の蔵書や設備がより充実して使いやすいか、過ごしやすい空間かどうかにも重視するかもしれない。病院図書室は直接利益を生まれないと思われるが、優秀な人材を惹きつけるには軽視できない部門である。この図書室がある病院で働きたいと思ってもらえるような図書室を作っていきたいものである。